



校長室だより

仙台市立東六番丁小学校

平成 22 年 3 月 24 日

児童数：378 名 NO.1-14

目指す子ども像

自ら学び考える子ども

励まし合い助け合う子ども

心と体を鍛える子ども



校木「エドヒガンザクラ」

事故のない楽しい春休みを

雪とけて村一ばいの子どもかな 小林 一茶

満員バスでの出来事です。小学校低学年と思われる男の子が、乗客の真ん中ほどに押しやられてきました。バスの揺れに合わせて乗客も揺れています。突然のカーブに男の子は、私のズボンを握りしめながら踏ん張りました。バスならずとも、人混みの中に親子で出かけた時、我が子にすり寄せられ、強く手を握り返された経験のある方は多いと思います。子どもは、安全で安心できる場所や方法をいち早く選択し、その状況に対応しているのだと思います。

日常生活には、自然災害、交通事故、不審者による声掛け、暴漢による傷害等、たくさんの不安や危険が存在します。時に、経験だけでは予見できない災害や事故に遭遇することもあります。

昨今、子供の危険予知能力の低下が指摘されていますが、様々な危険について理解したり予知したりする力を育てたいものだと考えています。明日から年度末・年度始めの休みに入ります。ご家庭でも、日常の生活にある危険について取り上げ、回避できることを知らせるよい機会にしたいものです。

一方、人や社会とのつながりや関わりの中で発生する事故や事件については、地域で市民的な取組が必要だと考えます。その代表が「あいさつ」だと考えています。「おはようございます、こんにちは、今日も寒いですね、どちらにご用ですか」等々のあいさつを交わすことで、地域により深いコミュニティを育てたいものです。不審者が近寄りやすく、反社会的な行為を排除する風土が育つあいさつを心掛けたいものです。あいさつは心のかけはしです。



本校では、平成 22 年度の重点目標の一つに、「場に応じたあいさつができる子ども」を掲げ、取り組みます。



ほほえましい光景

ある土曜日、学校で仕事をしていたときの事です。鳴ったインターフォンに出たところ、忘れ物を取りに来た親子がいました。玄関のロックを解除し、私も教室に向かいました。子どもは神妙な表情でしたが、お父さんの促しに、頭を下げあいさつができました。

子どもが廊下に展示している作品を指さし、小声で話しています。お父さんの感嘆の声が上がりました。作品を褒めている言葉がありました。目の前で、親子のほほえましい光景が展開しています。お父さんは一言断りを入れ、教室に入りました。すぐさま、子どもは、掲示されている自分の絵を指さしました。その絵の中には、子どもと一緒にいる大人が描かれています。「おう、お父さんを描いてくれたのか」父の手は我が子の頭の上に置かれています。表情は見えませんが、背中から、二人の笑顔が想像できました。親子の温かい光景にふれる時間でした。

親という漢字は、「木の上に立ってよく見る」と書きます。しかし、授業が見られない、会話する時間が少ないという方もたくさんおいでのことと思います。子どもの作品を通してお子様の学校生活を知ることできます。「親」という漢字には、「進んで目を掛ける」という意味もあります。



地域で育つ

19 日、卒業式がありました。参加されたご来賓の方から、「よい卒業式でした」と、お褒めいただきました。20 日、地域の方々と一緒に、8 人の 4 年生が参加した青葉区記念植樹式（花京院緑地）がありました。地域の方から、「あいさつすばらしいです」と、お褒めいただきました。

式に参加した子どもたちの落ち着いた所作や言葉に、成長の様子が見られたからこそその言葉だと受け止め、素直な気持ちで、その言葉を頂戴しました。

なおうれしいことに、子どもたちに対し、称賛の拍手や声掛けがあることです。子どもたちは、温かい拍手や声援に自信を付け、在るべき姿を、学んでいるのです。地域で育てられている子どもたちの笑顔を見た二日間でした。



校長室だよりをお読みいただきありがとうございました。保護者や地域の方々の「楽しみにしているよ」の一声に、私も育てられていることを実感し、読んでくださる方のお顔を想像しながら発行してきました。心から感謝申し上げます（渡部）。